

現代経営学演習

担当：藤原 賢哉

I 演習の目的

現代経営学演習は、専門職学位論文（修士論文）を作成するための研究指導（演習スタイルの授業）です。通常の修士論文では、学会に対する貢献やアカデミックな緻密性が求められますが、専門職学位論文は、それに加えて、実務に対するインプリケーションが強く求められます。つまり、経営学の論文であると同時に、実務社会（経営幹部、同業者、産業界）に対しても何らかのメッセージを論文に含む必要があります。このように書くと、何か、非常に難しいことを要求されているように思われるかもしれませんが、実際には、演習の中で、各自が日常業務の中で抱えている課題やテーマについて、アカデミックなアプローチに基づく調査・研究を行い（より正確には、実務上の課題を、アカデミックな概念・議論で定式化する、フレームワーク化する、といった表現の方が適切かもしれません）、その成果を専門職学位論文としてまとめるという作業になります。

当然ながら、ひとつの研究テーマに対してひとつの学問を勉強すればよいのではなく、MBAを通じて学習したすべての知識（あるいはさらにそれらを超えた知識）を総動員して、専門職学位論文を作成することになります。しかし、この作業を一人で行うことはなかなか困難です。現代経営学演習では、少人数のゼミナール方式の授業を通じて、受講者が抱えている課題とは何か、それが社会に対してどのような意味を持っているのか、何をどこまで明らかにしたいのか、それでどのような問題が解決されるのか、といった事柄を、他の受講者と教員が、問題意識を共有化（共感）し、建設的な意見の交換、アイデア提供や教えあい、を通じて、論文完成に向けて「走り切る」ことが必要になってきます。論文自体はあくまでも自己責任で執筆・完成することになりますが、その作成プロセスや環境は、ゼミの雰囲気・開放性といった事柄に依存するでしょう。指導教員としては、「伴走者」として、皆さんの論文完成を最後まで見守るという気持ちで演習指導に臨みたいと思います。

II スケジュール

① 9月22日（土曜日） 教室：アカデミア502

この日は午後から M2 の皆さんの研究成果のポスターセッションがありますので、演習自体は午前中（1・2限目）だけとなります。最初のゼミですので、

各自の自己紹介（各自5分程度、口頭のみ）

教員の自己紹介（教員の研究テーマ・プロジェクト等）、TA等の紹介

ゼミの運営方針・スケジュール等・提出物管理・連絡方法等の確認を行います。ポスターセッションは、専門職学位論文のテーマ（範囲）、論文の構成方法、分析方法、水準等について、よく観察して、各自の論文執筆等の参考にしてください。

② 10月13日（土曜日） 教室：アカデミア502

この日は、各自がゼミで取り組みたいと思うテーマについて、1) テーマ（演題）、2) 問題意識（動機）、3) 分析概要（研究内容と結果予想）、4) 研究スケジュール、についてまとめたものを、ファイル形式（パワーポイントもしくはワード等）で発表してください（発表と同時にファイル等を全員で共有できるようにします）。発表時間は、一人20分程度（15分+質疑応答5分）です。一コマ（90分）で4人発表し、4時間目の途中で全員（13人）発表が終わるというイメージです。（残りの時間は全体の質疑応答に用います）。

5時間目は、次回（11月24日）の授業にむけての準備（グループ分け+宿題）について説明します。

③ 11月24日（土曜日） 教室：未定

「デザインシンキング型」の授業を実施します。グループごとのチーム作業ですが、各自のテーマに置き換えつつ解決方法等について考えるための機会としてとらえてください。

1限目 アイスブレイク、授業説明、宿題結果の共有化・課題決定

2限目 課題深堀、アイデア・ビジネスモデル検討・解決ストーリー①

3限目 ゲスト講演

4限目 状況中間発表、アイデア・ビジネスモデル検討・解決ストーリー②

5限目 ストーリー最終作業、グループ発表、全体振り返り

④ 2月23日 教室：アカデミア502

1・2限目 データベース紹介と論文執筆作法の講習（図書館、TA、教員）

3～5限目 各自テーマ発表（一人18分程度（質疑応答含む））。

発表形式は2回目と同様ですが、どこが違うか（進んだか）がわかるようにしてください。

（パワーポイント・ワード等の形式は同じ）。この時点で、研究計画の方向性（テーマと作業内容・実現可能性）が固まっていることが望ましいです。逆に、この時点で、何をやりたいのかが決まらず迷走している様では、かなり2年目が大変になります（サポートもしづらい）。

Ⅲ 今年度の目標・進め方

演習担当者の専門は、金融・ファイナンスですが、今年度は、昨今の環境変化（マクロ経済、IT 技術・デジタル化）を受けての、金融業の新しいビジネスモデル、金融のイノベーション促進、金融業の役割・課題の再認識、創業と再生と金融の役割、未来社会のデザイン、といったテーマについて議論をしたいと思っています。皆さんが抱えているテーマをじっくり伺ったうえで、研究テーマ（先行研究含む）や分析手法等の点で「接点」をさがし、分析方法（定量・定性含めて）についてアドバイスしていきたいと思っています。

ちなみに、来年度のスケジュール感について少し情報提供しておきます。

2019年3月～4月ごろ（副指導教員の選定）

5月～6月（副指導教員へのコンタクト・説明・アドバイスもらう）

6月 MBA論文の論題提出（教務提出）

7月 卓越論文発表会（3本）（6月ごろゼミ指導教員が推薦）

8月 学位論文提出締め切り

9月 修了者発表会（ポスターセッション、合格者のみ）

秋以降 加護野忠男論文賞

Ⅳ 専門職学位論文の評価基準について

1. 論文に対して誠実かつ真摯に取り組んでいること。
2. 仕事で抱いた問題意識に関連したテーマを設定していること。
3. 現実に対して意味のある結果と含意を導出していること。
4. その結果と含意を導くプロセスが信頼に足り、説得力があること。

Ⅵ ゼミ生に求めること

演習では専門職学位論文を完成するのが、目標ではありますが、そもそも、なぜMBAに進学して、今、自分は何をしたいのかということを常に意識してください。1年半はあっという間に過ぎ去ってしまいます。過去の演習担当をしていて感じるのは、何をやりたいのか、何を解決したいのか、という問題意識が明確な方（他者にわかりやすく説明できる方）ほど、質の良い論文につながっていたように思います。幅広い視点から理解、柔軟性とフットワークの良さ、他の受講生に対する誠実な対応が、有益だと思っています。